

# RHC

## ロビンズヒップキャリー

いつから	生後1ヶ月～
必要な長さ	ベースサイズ -2

安定感抜群の  
腰だき

サイズを問わずに巻ける、  
体重分散に優れる腰抱き

ベースサイズでも、ショートラップ（ベース-2  
まで）でも巻ける、密着感の高い腰抱きです。  
肩や背中への布が2枚重なるため、大きくなって  
きた赤ちゃんもしっかり支えることができます。  
大人の身体の正面で抱っこすれば、首すわり  
前の小さな赤ちゃんも安定して抱っこが  
できます。ラップを巻いて準備しておけば、いつ  
でも赤ちゃんを抱いたりおろしたりすること  
ができるため、様々なシーンで活用しやすい巻き  
方です。



## 布の準備

ベビーラップをじゃばら状に整えて、身体のラインに沿うように準備をします。次のステップで引き締めがしやすく、より快適な抱き心地へとつながります。



① 布の中央のタグを肩の位置にセットし、肩の上の布をじゃばら状に集めます。



② 背中の布はぴったりと体に添わせ、反対側の布はボトムレールからじゃばら状に集めます。



③ 背中の布をピンと張り、



④ 腰骨辺りから布束を織り返して肩の布に重ね、



⑤ 重ねた布束を挟むように、肩から垂れている布を背中に向かって折り返します。



⑥ 肩の上に重なった2枚の布をじゃばら状に整え、お好みで肩の上に広げます。



⑦ 挟んだ布の方もトップレールからボトムレールまでじゃばら状に整え、引き締めるときの布の動きを確認し、ねじれていないか確かめます。



⑧ 布がクロスしている部分になるべく高い位置に置くようにセットし、



⑨ 仮結びします。



⑩ セット完了です。



⑪ トップレールとボトムレールをもって広げ、ねじれていないか確認します。

## 抱き入れ

はじめに赤ちゃんを布束の上に座らせて、M字開脚の深い座り姿勢をとることがポイントです。広げた布は赤ちゃんの背中全体を包み、シートはお尻から両膝裏まで届くように作ります。

①



抱き入れる腰と同じ肩に赤ちゃんを高く抱っこします。

②



脚とお尻を支え、脚を布束の下に迎え入れます。※足を引っ張らないように！

③



布束が赤ちゃんの両膝裏に当たるようにし、

④



布束が赤ちゃんの両膝裏に当たるようにし、

⑤



トップレールから少しずつ布を広げます。

⑥



肩をすっぽり包むように布を広げます。小さい赤ちゃんなら後程ネックサポートを作るため耳のあたりまで布をしっかり引き上げます。

⑦



ボトムレールをおへそに向かって引き上げ、膝から膝までしっかり赤ちゃんのお尻を支えます。シートを作ります。

⑧



抱き入れ完了です。トップレールの緩みは交差部分の近くに引き締めておきます。



## 引き締め

布の流れに沿って放射状に引き締めれば、布の滑りが良くスムーズです。端から順番に数回に分けて引き締めると赤ちゃんの身体に布がジャストフィットして快適さと安定感がアップします。



① 布の流れを確認し、トップレールを結び目まで送ります。



② 両方の布を前にピンと張った状態を保ちながら、



③ 仮結びを解きます。



④ 前の布をしっかり握ったままお尻を支え、後ろの布束を引き締めます。



⑤ 斜め下方向へ引き締めます。



⑥ お尻を支える手を替え、前の布束を引き締めます。



⑦ トップレールから一筋ずつ引き締めます。まずはトップレールが一直線になるように引き締め、



⑧ さらに元来た方向に布を折り返しながら引き締めます。



⑨ ボトムレールまで3～5等分をイメージし、放射状に一筋ずつ同様に引き締めます。



⑩ 赤ちゃんの脚の上を通ってお尻の下でクロスし、



⑪ 赤ちゃんの脚の下を通り、後ろで2回結びます。



⑫ 完成です。

## 確認・アレンジ

鏡を使いながら、安全で快適な抱っこができているか確認しましょう。



お辞儀しても赤ちゃんがグラグラせず密着しています。



膝裏には圧迫がなく、親指1本が通ります。



肩の布は首の近くより肩の骨にかかるように広げます。赤ちゃんの体重を骨で支えるようにすると、肩こり予防に役立ちます。

## 下ろし方

安全のために結び目を解いたらしっかり布のテンションを保ち、片手はなるべく赤ちゃんのお尻を支えておきましょう。



布をピンと張りながら結び目を解き、



抱っこしたときとは反対に布を送ります。



肩の布を緩め、



布を外します。